

8番 畠山和英です。令和7年第3回岩泉町議会定例会に当たり、今後の町政運営に臨む町長の所信について一般質問を行います。

(町長の改選時期)

中居町長の3期目出馬について伺います。

今、町民にとって、次の町長選挙はどうなるか、町長はどのようなになるのかが大きな関心事です。今回は、この1点に絞って質問を取り上げます。

中居町長は、平成29年末、伊達前町長が任期満了前に辞職し、如何にして台風禍を乗り越え町の復旧復興を図っていくかという大義のもと、当時の中居副町長が町長候補に擁立され、平成30年1月の岩泉町長選挙で無投票で誕生しました。

また、中居町長は、未曾有の台風災害からの復旧復興、防災・減災体制の強化など最優先課題である「町災害復興まちづくり計画」を概ね成し遂げるとともに、令和8年度までを目標期間とする町総合計画「未来づくりプラン」の着実な推進に総合的に取り組むなど、行政手腕が高く評価され、4年後も無投票で再選を果たしました。

(中居町長のこれまでの取組)

中居町長は、この間、災禍からの復旧復興という町政史上最大の危機や、続くコロナ禍、物価高など大きな試練を適時適切な対応、対策で乗り越え、町民や、企業・事業所の経営者らを牽引してきました。

町長就任以来、「町民に寄り添った町政推進」をまちづくりの基本姿勢として取り組み、令和2年度に町民らとともに策定した町総合計画に掲げる6つの重点施策「魅力ある居住環境の整備」、「関係人口の拡大」、「産業の強化による働く環境の充実」等々、総合計画に沿ってまちづくりを推進しています。

(中居町長の3期目出馬意思)

来年度は、町村合併70周年の節目の年を迎えますが、これを機に、なお一層、持続可能なまちづくりに向けて邁進し、飛躍を実現できるまちを共に創り上げたいものです。

中居町長は、町の未来を創り出す大きな目標を達成し、災害復興からその先を見据えて産業振興、町の振興発展に繋げ

ていかなければなりません。町総合計画の将来像「希望の大地から未来の花咲くいわいずみ」の実現に向け“花を咲かせなければ”ならないと考えます。

中居町長の2期目任期も残すところ4カ月余となりました。改めて町長選出馬へのお気持ちを伺お聞かせください。町長3期目への出馬意思について所見を伺います。

(以上で、本席からの質問を終わります。)

8番 畠山 和英 議員の御質問にお答えします。

私の町長としての1期目のスタートは、平成30年1月28日でありました。

当時を振り返りますと、台風災害からの復旧・復興のさなか、町政が一時混乱する状況の中での出馬でもあったわけであります。

町は、平成23年3月11日の東日本大震災津波による大災害から、復旧・復興にめどが付き、町村合併60周年を祝おうとした矢先の平成28年8月30日に、台風第10号豪雨災害によって、町全域が、かつて経験したことのないような、未曾有の大災害に見舞われたところであります。

当時の、あの無残な光景が、今でも思い出され、胸が締め付けられる気持ちになります。

このような悲惨な状況の中、正直、これから先、本当に町の復旧・復興が果たせるのか、日々、苦悶の繰り返しでもありました。

しかし、町のため、町民のため、そして、災害前の、私たちの郷土岩泉町を取り戻すため、全身全霊で、町政の先頭に立ち、かじ取りをする決意と覚悟をもって、これまで挑戦してきたところであります。

そのような中、令和4年1月には、引き続き、台風災害からの復旧・復興を果たすべく、町民の皆様の信任をいた

だき、退路を断つ覚悟の上で、2期目のスタートを切ったところでもあります。

私の気持ちの中心にありましたのは、これまでの大災害からの復旧・復興を成し遂げ、町民の皆様の安全・安心な暮らしと、町の緑豊かな自然を取り戻すという一点でありました。

あれから、9年が経過し、この秋には小本川、清水川の河川改修も完了する予定と伺っております。

台風災害の町単独事業についても、スピード感をもって進め、本年4月の「ふれあいらんど岩泉」のリニューアルオープンをもって完了いたしました。

加えて、防災・減災の観点から「危機管理課」を設置し、200名を超える防災士の育成、防災協議会などの設立に取り組んできたところでもあります。

この2期8年の間には、災害からの復旧・復興を進めながらも、一方の大きな課題である子育てや、町民の皆様の健康、医療、介護分野への支援などを進めるとともに、岩泉高校の存続強化、済生会岩泉病院の充実、国道455号、340号を始めとする県道整備にも取り組んでまいりました。

また、定住のための宅地造成や分譲、定住住宅などの整備、地域おこし協力隊による移住対策、ふるさと納税の拡充、さらには、地域新電力会社の設立準備や、再生可能エネルギーの促進などを進め、あらゆる分野において、持続

可能なまちづくりに取り組んできたところであります。

6次産業化の要である「岩泉ホールディングス」は、今は厳しい経営状況を脱し、安定的な経営環境も整いつつあります。

以上、るる申し上げましたが、私は、2期8年間で、町議会並びに町民の皆様の御支援と御協力を賜りながら、災害で荒れ果てた、広大な岩泉の大地を耕し、新たな種をまく環境を整えることができたと思っております。

したがいまして、退路を断ち、2期8年で復旧・復興を成し遂げるとの強い思いが実現できた今、町長としての役目は、ここで一区切りとさせていただき、町民の皆様とともに耕してきたこの広大な大地は、新たなリーダーによって、様々な種をまき、花開くよう、バトンタッチをし、新たな発想の下で、持続可能なまちづくりに挑戦していただきたいと考えております。

私も、令和8年1月27日まで任期が残っておりますので、最後の最後まで町議会を始め、町民の皆様と力を合わせ、町政推進に取り組んでまいりますので、なお一層の御支援、御協力を賜りますよう心からお願い申し上げます、答弁とさせていただきます。